

## 第 54 回 旧 R D 最終処分場問題連絡協議会の開催結果

■ 日 時 令和 7 年 9 月 3 日（水）19:00～21:30

■ 場 所 栗東市コミュニティセンター治田東（栗東市安養寺 205）

■ 主な質疑・ご意見（⇒県の回答、→栗東市の回答）

1 前回の開催結果の確認について

①栗東市から旧処分場隣地の事業者に対し、旧処分場の跡地利用に協力を要請してほしいと前回意見を出したが、その後の対応はどうか。

→今のところ資料の整理を行っている状況である。跡地利用協議会に向けて資料を準備していきたい。

2-1 令和 7 年度第 1 回モニタリング調査結果について

②ダイオキシン類の数値が 0.057pg-TEQ/L である地点がほとんどだが、異なる地点でなぜ同じような値が検出されるのか。

⇒ダイオキシン類は似たような構造を持つ複数の物質の総称であり、その毒性等量は各物質の濃度に毒性係数を乗じたものを合計するが、濃度が検出されない場合でも検出下限値の 2 分の 1 の数値を使って計算することとなっている。いずれの地点でも不検出に近い状況であれば、同程度の数値が並ぶこととなる。

2-2 No. 3-1 地点におけるひ素の地下水環境基準超過について

③平成 24 年度に採水方法が変更されて SS が下がったことに伴いひ素の数値も下がったかと思うが、このひ素の由来はわかるのか。

⇒自然由来のひ素のほか、旧処分場由来のひ素もあったかもしれないが、そこはわからない。

④地下水の流向は東側から西側に向いているにもかかわらず、No. 3-1 の地下水が H16-No. 5（No. 3-1 の北側）の浸透水の影響を受けているというのは矛盾していないか。

⇒旧処分場の底面粘土層が欠損した箇所に向かって浸透水が流れ、地下水帯水層に入っていたと考えられる。浸透水の流れとその下の地下水帯水層の流れは別であり矛盾するものではない。

⑤No. 3-1 は元々廃棄物が埋め立てられていた箇所なのか。

⇒旧 R D 社の埋立範囲外である。

### 3 維持管理の状況について

⑥送泥ポンプのベルト交換は今回が初めてか。

⇒年1回程度交換している。

### 4 アーカイブ総括編について

⑦容量超過のことは、住民はずっと県に言っていたから、知らないはずがない。

⇒住民の方から平成19年度の調査以前にも容量超過の可能性に関し指摘があったことは原稿案にも記述している。住民の方から何も指摘がなかったということではない。

⑧栗東市の職員が根拠のない噂を流したと言われているが、この回答を受けて栗東市はどうするのか。

→ヒアリングで確認していきたい。

⑨住民が県に「今から30分以内に来たら協議に応じる」と言ったとあるが、県のホームページに資料を掲載する前にこれが事実なのか確認すべきではないか。

⇒記録を確認のうえ掲載方法について検討する。

### 5 周辺環境モニタリング等の在り方と今後の対応について

⑩資料5の「今後の周辺環境モニタリング等の位置づけ」に「この処分場問題の発生にあたっては、住民から現地を昔の自然の野山に戻してほしいという強い要望があることから、科学的な意味での環境基準に関わらず、住民の安心の確保という観点から、旧処分場が自然の野山にどれだけ近づいたかを確認することを目的とする。」という文言を入れてほしい。

⇒要望については承知したので検討する。